

個票 16 防波堤や護岸などの整備に自然材料や消波・根固ブロックで空隙のあるブロックの使用 [海 2(2)③3-1]

(2010年作成)

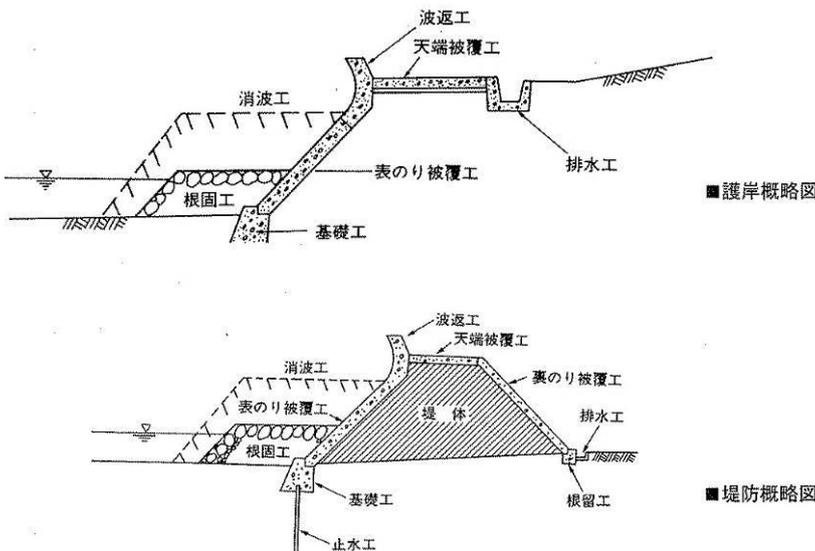
配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	空隙の多い環境の保全		
配慮事例	防波堤や護岸などの整備に自然材料や消波・根固ブロックで空隙のあるブロックの使用		

●防波堤や護岸などの整備に自然材料や消波・根固ブロックで空隙のあるブロックの使用

【解説】

防波堤や護岸の整備に際し、凹凸面のある自然材料や空隙のあるブロックを用いることで、効果的に海藻を繁茂させ、魚介類を蝸集させることができます。

【具体的な工法・配慮事項】

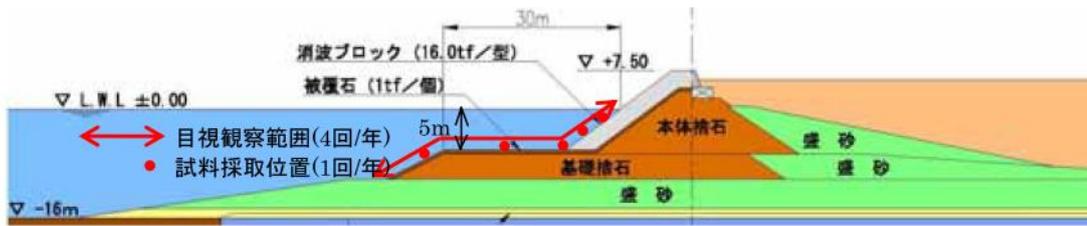


内容

出典:1

- ① 法面形状を親水性に考慮した階段式にする場合は、表面を自然石で覆った護岸にし、表面の凹凸を利用して生物が海と陸を行き来できるようにします。
- ② 護岸の基盤を凹凸や間隙を持った複雑な構造にすると平式や単純な構造の基盤に比べ、海藻類の付着や魚介類の隠れ場、餌場、産卵場として利用されます。
- ③ 消波工・根固工は必要に応じて護岸等の全面に設置し、コンクリートブロックや捨て石等を用い、海藻類の付着基盤や魚介類の隠れ場、餌場、産卵場として利用できるようにします。

【事例】



出典:2

【場所】

兵庫県神戸市 神戸空港

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ 神戸空港島では、外周護岸 7.7km のうち 6.7km に環境創造型護岸として、緩傾斜石積護岸構造を採用した。
- ・ 緩傾斜石積護岸は、ケーソンなどの直立護岸と比べ、護岸前面に藻場や魚類の生息空間となる浅場を形成するため、生物の多様化が期待できる。
- ・ 空港島の緩傾斜石積護岸では、太陽光の届く水深 5m 以浅に石やブロックを基盤とする幅約 30m の浅場を設けた。

留意点

参考資料

- 1 「自然共生型海岸づくりの手引き」 農林水産省農村振興局・農林水産省水産庁・国土交通省港湾局・国土交通省河川局
- 2 「神戸空港における環境創造への取組みについて」 近畿地方整備局研究発表会平成 20 年度調査・計画・設計部門 I